

児童

センター

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 後 期 実 施 計 画 書

事業NO,	政策目標	2	安心感の持てる福祉のまち・雄武 保健・医療・福祉の充実	会 計 区 分	一般会計	全体計画（後期実施計画期間外の期間を有する場合のみ）
10010010	基本施策	8	子育て・子育ての充実	事業優先度	A 地域力の向上（活力・生産・協働）のために最優先して行うべき事業	
	単位施策	2	地域ぐるみの子育て支援	担 当 課	児童センター	
事 業 名	放課後子どもプラン推進事業			関 係 課	教育振興課	
事業期間	令和5年度～令和9年度	事業主体	雄武町		地域福祉課	
事業指標	①開設日数 ②利用者数			数 値 目 標	①年306日 ②年10,000人	

全 体 計 画 事 業 内 容				令和5年度 事業内容		令和6年度 事業内容		令和7年度 事業内容		令和8年度 事業内容		令和9年度 事業内容	
放課後児童健全育成事業 ・行事体験活動 ・クラブ活動 ・異年齢層との交流				行事体験活動 クラブ活動 異年齢層との交流		行事体験活動 クラブ活動 異年齢層との交流		行事体験活動 クラブ活動 異年齢層との交流		行事体験活動 クラブ活動 異年齢層との交流		行事体験活動 クラブ活動 異年齢層との交流	
				年度別数値目標	①306日 ②10,000人	①306日 ②10,000人	①306日 ②10,000人	①306日 ②10,000人	①306日 ②10,000人	①306日 ②10,000人	①306日 ②10,000人	①306日 ②10,000人	
		計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費
財 源 内 訳	国庫支出金	14,000	2,031	2,800	2,031	2,800		2,800		2,800		2,800	
	道支出金	14,000	2,031	2,800	2,031	2,800		2,800		2,800		2,800	
	地方債	0	0										
	その他	100	0	20	0	20		20		20		20	
	一般財源	27,900	4,033	5,580	4,033	5,580		5,580		5,580		5,580	
合 計 (千円)		56,000	8,095	11,200	8,095	11,200	0	11,200	0	11,200	0	11,200	0
特 定 財 源	地域子ども・子育て支援交付金 雇用保険料	評 価 ・ 実 績	実施内容	放課後児童健全育成事業 ・行事体験活動 ・クラブ活動 ・異年齢層との交流									
			評価結果	A－継続／現状維持									

事業名	放課後子どもプラン推進事業	評価者 管理職 職氏名	児童センター館長	林崎光也
		評価者 作成者 職氏名	児童センター館長	林崎光也

令和5年度実施
令和6年度評価

■ 事務事業の目的・内容（Plan・Do）

誰、何が（対象）	保護者が就労等により昼間留守家庭となる児童（小学生）		望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）	開設日数、利用者数		
抱える課題やニーズ	留守家庭児童の安全な居場所づくり			指標（指標計算式／解説）	目 標 値 及 び 実 績 値	
どのような状態になることを目指したのか（意図）	児童の学校終了後の安全確保と異年齢者との関わりを通して自主性・社会性を養う。		①	開設日数	目 標 年 度	令和5 年度
					目 標 値	306 日
					実 績 値	308 日
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果＝目的	留守家庭児童の健全育成を図り、保護者の子育てと就労の両立を支援する。		②	利用者数	達 成 度	100.7 %
					目 標 年 度	令和5 年度
					目 標 値	10,000 人
					実 績 値	8,285 人
					達 成 度	82.9 %
内 容（どのような手段で何を行ったか）	児童クラブの開設	・開設日 月～金、休校日（土・祝・学校が特別に休みとした日） ・時間 平日・・・授業終了後～17：30 休校日8：00～17：30（弁当対応） 2クラブ開設				

■ 事務事業の評価（Check）

(1) 事務事業の必要性（町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要	☒	義務的なもの	登録児童数は横ばいで、保護者のニーズは継続して存在する。事業を実施しない場合、児童の安全性が確保されず保護者も安心して就労できない。
必要／概ね必要	☒	全部	
／課題あり	☐	一部	

(2) 事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効	設定した目標値の達成状況	保護者が安心して就労でき、子どもの安全確保が図られた。
	☐ 達成	
有効／概ね有効	☒ ほぼ達成	
／課題あり	☐ 下回る	

(3) 事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的	判断の理由	児童センターで実施することにより無駄なく事業実施が可能である。
	☐ 事業費抑制	
	☐ 人員削減	
効率的／概ね効率的	☐ 時間短縮・作業軽減	
／課題あり	☒ その他	

(4) 事務事業の公平性

公平	判断の理由	年間を通して町内全ての児童が利用できる。
	☐ 受益者負担がある	
	☒ 受益者負担がない	
公平／概ね公平	☐ 受益が一部に偏る	
／公平でない	☒ その他	

■ その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）

■ 総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B：ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
保護者の就労等による登録児童は横ばいであるが、児童が安心して過ごせる場の提供を図ることができた。		

今後の展開方向 (Action)			
継続／現状維持			
登録児童数は横ばいであり、保護者のニーズは継続して存在することから、職員の確保により児童指導体制の充実を図るとともに、今後も留守家庭児童の健全育成に努めていく必要がある。			

※展開方向の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 後 期 実 施 計 画 書

事業NO,	政策目標	2	安心感の持てる福祉のまち・雄武 保健・医療・福祉の充実	会計区分	一般会計	全体計画（後期実施計画期間外の期間を有する場合のみ）
10010020	基本施策	8	子育て・子育ての充実	事業優先度	A	
	単位施策	2	地域ぐるみの子育て支援		地域力の向上（活力・生産・協働）のために最優先して行うべき事業	
事業名	児童ふれあい交流促進事業			担当課	児童センター	
事業期間	令和5年度～令和9年度	事業主体	雄武町	関係課	教育振興課 地域福祉課	
事業指標	①事業数 ②参加者数			数値目標	①年100回 ②年2,000人	

全 体 計 画 事 業 内 容				令和5年度 事業内容		令和6年度 事業内容		令和7年度 事業内容		令和8年度 事業内容		令和9年度 事業内容	
世代間交流事業（乳幼児・保育所児・高齢者） ・行事体験活動 ・体力増進活動				行事体験活動 体力増進活動		行事体験活動 体力増進活動		行事体験活動 体力増進活動		行事体験活動 体力増進活動		行事体験活動 体力増進活動	
年度別数値目標				①100回 ②2,000人		①100回 ②2,000人		①100回 ②2,000人		①100回 ②2,000人		①100回 ②2,000人	
		計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費
財 源 内 訳	国庫支出金	0	0										
	道支出金	0	0										
	地方債	0	0										
	その他	0	0										
	一般財源	6,000	1,188	1,200	1,188	1,200		1,200		1,200		1,200	
合 計 (千円)		6,000	1,188	1,200	1,188	1,200	0	1,200	0	1,200	0	1,200	0
特 定 財 源			評 価 ・ 実 績	実施内容	世代間交流事業 （乳幼児・保育所児・高齢者） ・行事体験活動 ・体力増進活動								
				評価結果	A－継続／現状維持								

事業名	児童ふれあい交流促進事業	評価者 管理職 職氏名	児童センター館長	林崎光也
		評価者 作成者 職氏名	児童センター館長	林崎光也

令和5年度実施
令和6年度評価

■ 事務事業の目的・内容（Plan・Do）

誰、何が（対象）	全ての児童、子育て中の親子		望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）	事業数、参加数			
抱える課題やニーズ	子ども達が安心して遊べる場所が減少している。						
どのような状態になることを目指したのか（意図）	児童センターにおいて、健全な遊びを提供し、異年齢や地域の人々との交流を通して、社会性、自主性、創造性を養う。		指標（指標計算式／解説）	目 標 値 及 び 実 績 値			
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果＝目的	児童の魅力ある居場所となり、健全育成が図られる。			①	事業数	目 標 年 度	令和5 年度
						目 標 値	100 回
						実 績 値	74 回
				②	参加数	達 成 度	74 %
			目 標 年 度			令和5 年度	
			目 標 値			2,000 人	
					実 績 値	1,811 人	
					達 成 度	90.55 %	
内容（どのような手段で何を行ったか）	行事体験活動	新型コロナウイルス感染症も5類に移行となったため、コロナ禍前に近い形で多種多様な行事を実施し、体験活動を行った。					
	体力増進活動	数多くのスポーツ指導を行い、体力増進を図った。					

■ 事務事業の評価（Check）

(1) 事務事業の必要性（町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複と見直しによる対応可能性）

必要	☐	義務的なもの	子ども達を取り巻く環境が変化する中、遊びの拠点となる地域の安全な
必要／概ね必要	☐	全部	居場所と交流を通じて、地域全体が子育て支援を行う環境づくりが必要
／課題あり	☐	一部	である。

(2) 事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

概ね有効	設定した目標値の達成状況	新型コロナウイルス感染症も5類に移行となったため、児童が集える場
有効／概ね有効	☐ 達成	所を確保したところ、ほぼコロナ禍前までの参加人数に戻った。
／課題あり	☒ ほぼ達成	
	☐ 下回る	

(3) 事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的	判断の理由	物価が高騰する中、従来同様の予算額の範囲内で事業を展開した
効率的／概ね効率的	☒ 事業費抑制	が、職員の創意工夫によって楽しめる場の確保が図られた。
／課題あり	☐ 人員削減	
	☐ 時間短縮・作業軽減	
	☐ その他	

(4) 事務事業の公平性

公平	判断の理由	全ての乳幼児、児童、中高生の利用が可能である。
公平／概ね公平	☐ 受益者負担がある	
／公平でない	☐ 受益者負担がない	
	☐ 受益が一部に偏る	
	☒ その他	

■ その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）

■ 総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B：ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
新型コロナウイルス感染症も5類に移行となったため、コロナ禍前並みに各事業が開催でき、参加人数も戻ってきた。今後も子供たちが集い体験できる機会確保のため、事業展開を進めていく。		

今後の展開方向 (Action)			
継続／現状維持			
今後も魅力ある内容のプログラムを用意し、町内の子ども達や地域の方々にセンターを利用してもらい、地域の交流の場となるよう本事業を進めていく必要がある。			

※展開方向の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 後 期 実 施 計 画 書

事業NO,	政策目標	2	安心感の持てる福祉のまち・雄武 保健・医療・福祉の充実	会 計 区 分	一般会計	全体計画（後期実施計画期間外の期間を有する場合のみ）
10010030	基本施策	8	子育て・子育ての充実	事業優先度	A 地域力の向上（活力・生産・協働）のために最優先して行うべき事業	
	単位施策	2	地域ぐるみの子育て支援	担 当 課	児童センター	
事 業 名	児童センター整備事業			関 係 課		
事業期間	令和5年度～令和6年度	事業主体	雄武町			
事業指標	環境整備に係る工事実施割合			数 値 目 標	100%	

全 体 計 画 事 業 内 容				令和5年度 事業内容		令和6年度 事業内容		令和7年度 事業内容		令和8年度 事業内容		令和9年度 事業内容	
エアコン設置工事 遊戯室照明器具更新工事(LED)				遊戯室照明器具更新工事(LED)		エアコン取付工事 事務室・静養室・児童クラブ室							
年度別数値目標				100%		100%							
		計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費
財 源 内 訳	国庫支出金	337	0			337							
	道支出金	337	0			337							
	地方債	0	0										
	その他	0	0										
	一般財源	3,374	0	3,036	0	338							
合 計 (千円)		4,048	0	3,036	0	1,012	0	0	0	0	0	0	0
特 定 財 源	こども子育て交付金（国費・道費）	評 価 ・ 実 績	実施内容	遊戯室照明器具更新工事(LED) は令和6年度への繰越事業のため、 契約締結まで実施									
			評価結果	A－継続／現状維持									

事業名	児童センター整備事業	評価者 管理職 職氏名	児童センター館長	林崎光也
		評価者 作成者 職氏名	児童センター館長	林崎光也

令和5年度実施
令和6年度評価

■ 事務事業の目的・内容（Plan・Do）

誰、何が（対象）	児童センター利用者		望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）	環境整備に係る工事実施割合		
抱える課題やニーズ	遊戯室（体育館）照明の照度が低いのに加え、4列中1列が故障により点灯しない			指標（指標計算式／解説）	目 標 値 及 び 実 績 値	
どのような状態になることを目指したのか（意図）	照度が保たれ、安全安心な遊戯室利用ができる。		①	環境整備に係る工事実施割合	目 標 年 度	令和5 年度
					目 標 値	100 %
					実 績 値	100 %
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果＝目的	照度が保たれ、安全安心な遊戯室利用ができる。		②		達 成 度	100 %
					目 標 年 度	令和5 年度
					目 標 値	
					実 績 値	
					達 成 度	#DIV/0! %
内容（どのような手段で何を行ったか）	遊戯室照明器具更新工事(LED)	令和6年度への繰越事業のため、令和5年度中は指名競争入札により契約締結まで実施				

■ 事務事業の評価（Check）

(1) 事務事業の必要性（町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要	☐	義務的なもの	児童の安全安心な居場所づくりのため必要である。
必要／概ね必要	☐	全部	
／課題あり	☐	一部	

(2) 事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効	設定した目標値の達成状況	令和6年度への繰越事業としているが、令和5年度に契約締結済である。
有効／概ね有効	☒ 達成	
／課題あり	☐ ほぼ達成	
	☐ 下回る	

(3) 事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的	判断の理由	L E D照明に更新しており、電気料コストを削減するよう配慮した。
効率的／概ね効率的	☒ 事業費抑制	
／課題あり	☐ 人員削減	
	☐ 時間短縮・作業軽減	
	☐ その他	

(4) 事務事業の公平性

公平	判断の理由	児童センター利用者全体が使用する遊戯室の照明更新であることから公平性は保たれている。
公平／概ね公平	☐ 受益者負担がある	
／公平でない	☒ 受益者負担がない	
	☐ 受益が一部に偏る	
	☒ その他	

■ その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）

■ 総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B：ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
事業自体は令和6年度への繰越事業となるため、令和5年度中は契約事務まで完了済み		

今後の展開方向 (Action)			
継続／現状維持			
児童センターの安全安心で快適な施設環境確保のため、継続して事業実施が必要			

※展開方向の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止